開 会 午前10時6分

●**田中啓介委員長** ただいまから経済観光委員会を開会いたします。

報告事項であります、特にございません。

それでは、議事に入ります。

最初に、議案第1号 令和7年度札幌市一般会計補正予算第1号中、関係分を議題といたします。

質疑を行います。

●**中川賢一委員** 私からは、定山溪地区におけます自動運転バスの実証実験について、お伺いをします。

定山溪温泉は、豊かな自然と、歴史ある温泉地として、国内外から多くの観光客を迎えておりまして、ここ数年は新たな温泉施設やカフェ、飲食店が続々とオープンし、地域全体の魅力が一層高まっていると感じるところでございます。一方で、札幌市中心部からの交通アクセスの充実や、温泉街の周遊促進などが、長年の課題となっております。

これまで、全国各地で自動運転バスの運用実績のある企業との意見交換などを重ね、国交省の自動運転社会実装推進事業の補助制度を活用し、札幌市で抱えている様々な交通課題の解決に向けた取組ができないものか、会派として提案をしてきたところでありまして、今年第1回定例市議会予算特別委員会におきまして、我が会派の小須田議員の質疑に対して、定山溪地区における自動運転バスの実証実験の導入に向けた検討を進めていくというようなご答弁がございました。

そこで、まず質問ですけれども、このたび定山溪地区において、自動運転バスの実証実験を行う背景と、その目的について、改めてお伺いします。

●**北川観光・MICE推進部長** 実証実験を行う背景と目的について、お答え申し上げます。

現在、今後10年間にわたる定山溪の観光振興施

策の指針になります第2次定山溪魅力アップ構想の素案を策定しているところでございます。

今後、地元関係者との調整やパブリックコメントの実施等を経まして、今年度中の策定を予定しているところでございます。

この構想策定に向けた検討会議におきましては、定山溪の観光振興の課題として、エリアの特性に即した景観形成、客層の多様化への対応、滞在時間の延長、交通利便性の向上などが挙げられており、札幌市としましても、とりわけ市内中心部と定山溪をつなぐ交通アクセスの充実、また温泉街の周遊促進といった交通分野での対策が、喫緊の課題であると認識しているところでございます。

こうした課題を踏まえまして、今回の実証実験では、人手不足の現状における温泉街での周遊環境の改善を図ることを主たる目的としながら、自動運転に適したエリアかどうかといった観点のもとより、乗車そのものを楽しめる観光コンテンツとしての可能性も含めて、総合的な検証を行うものでございます。

●**中川賢一委員** 確かに、これまでになく新しい移動手段ということになりますので、それに乗ること自体を楽しみに、目的に訪れるという方もいらっしゃるということは十分に考えられまして、これによりまして観光客の周遊性が高まっていくということで、滞在時間も長くなっていくということも期待できますし、そうしたことを通じて、地域経済の活性化にもつながっていくということが十分に期待されるのではないかと思います。

この実証実験を単なる技術の検証にとどめるのではなく、今後も地域全体の価値というものを高めていくための取組となるよう、様々な視点で検証していくことが重要と考えます。

そこで次の質問ですが、今回の実証実験の具体的な実施方法についてお伺いします。

●**北川観光・MICE推進部長** 実証実験の具

体的な実施方法について、お答え申し上げます。

今回の実証実験は、定山溪温泉街におきまして、足湯施設や定山溪大橋などのスポットを巡る全長約7kmのコースを設定しており、紅葉シーズンでにぎわう10月頃に準備走行も含め、おおむね1か月間の実施を予定しているところでございます。

また、実施に当たりましては、自動運転バスの観光コンテンツとしての可能性を検証するため、定山溪らしい車体のラッピングや、観光スポットを紹介する車内放送など、温泉街を訪れる方々により楽しんで乗車いただけるような工夫についても検討してまいります。

さらに、安全かつ円滑な実証実験の実施に向け、北海道警察や北海道運輸局をはじめとする関係機関と緊密に連携するための協議体を設置し、運行計画や安全対策について検討を進めてまいりたいと考えてございます。

●中川賢一委員 交通手段でありますけれども、やはりそれ自体がコンテンツとして魅力をとということで、季節柄も重要でございますので、魅力的な実証実験になるように期待したいと思っております。

定山溪地区の観光振興につきましては、今年度中に第2次定山溪観光魅力アップ構想を策定するというふうに聞いております。地域の皆さんの声や、観光事業者の意見などもしっかりと取り入れながら、定山溪のさらなる魅力向上を目指して、取組を進めていただきたいと思います。

また、我が会派は、本定例会の代表質問で、これからの公共交通の維持について質問し、自動運転バスを含めた様々な手法を検討していくことが重要というような考えを表明したところでございます。

今回は、定山溪エリア内の周遊促進の観点からの自動運転バスの導入を検討するというものでございますけれども、実証実験の結果につきましては、そういった将来も見据えて、幅広い観点から

分析・検証していくべきということを申し添えて、私からの質問を終わりたいと思います。

●田中啓介委員長 ほかに質疑はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●田中啓介委員長 なければ、質疑を終了いたします。

次に、討論を行います。

討論はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●田中啓介委員長 なければ、討論を終了いたします。

それでは、採決を行います。

議案第1号中、関係分を可決すべきものと決定することに、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●田中啓介委員長 異議なしと認め、議案第1号中、関係分は可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第8号 札幌産業展示場条例案を議題といたします。

質疑を行います。

●竹内孝代委員 私からは、議題であります札幌産業展示場条例案を踏まえまして、現行の展示施設でありますアクセスサッポロ及び、その後継施設である新たな展示場について、質問をさせていただきます。

まず、このアクセスサッポロというのは、1984年6月に、札幌初の本格的な展示場ということで開業して以来、催事関係者等とのネットワークを構築しながら、数々の催事を開催してきたと承知しております。

ちょうど今週日曜日の6月1日のことになりましたけれども、このアクセスサッポロをお借りいたしまして、我が党主催の子育てセミナーを開催させていただきました。私も利用する、そうした機会を得ました。

この会場内には当日、子どもの遊戯広場とし

て、ふわふわドームというような多数の遊具が配置できたり、また、スポーツ体験コーナーをそれぞれ配置したり、また、北海道の食が楽しめるようなキッチンカーの出店というのも企画いたしました。併せて来札をいただきました東京大学橋本名誉教授の子育て講演会場も大きく開かせていただくなど、この子育て世代を中心とした大規模イベントというのを、直接経験をさせていただきました。

自分もスタッフの一員として、準備運営に携わったんですが、アクセスサッポロというのは、無料駐車場が1,100台確保されておりますので、当日ご来場いただきました本当に大勢の方々がとても利用しやすく、また楽しまれている様子、これを目の当たりにいたしまして、改めて市内に、こうした展示場を設置運営するという事の大切さ、また、その役割の大きさを再認識する、そうした機会を得させていただきました。

このアクセスサッポロですけれども、昨年、開業40周年を迎えたというところでありまして、今、イベントのお話をしましたけれども、当日の職員の皆様方にも大変ご尽力いただきましたけれども、これまでの間、多種多様な催事の開催を通じて、札幌市・北海道の産業振興に大きく寄与してきた施設だというふうに認識しております。

そこで、まず初めに質問させていただきますけれども、このアクセスサッポロ、開業以来40年の歩みについて、その総括をお願いいたします。

● 渋谷産業振興部長 アクセスサッポロの40年の歩みについてでございますが、アクセスサッポロは1984年（昭和59年）6月に開業し、こけら落としには札幌国際見本市を開催して、道内外から、10日間で延べ20万人以上の来場者をお迎えいたしました。

開業以来、順調に稼働率を伸ばし、おおむね70%台から80%台の安定した稼働率を維持しており、40年以上にわたり、これまで4,400件を超える数多くの催事を開催することで、道内産業の振

興及び新たな価値の創出を促進してまいりました。

このように、アクセスサッポロは地域経済の発展に寄与してきた展示場であると高く評価できる一方で、高い稼働率により、新たな催事の受入れが困難であることや、面積はもとより、間仕切りなどの施設の機能が不足していることが課題となっております。

● 竹内孝代委員 40年以上にわたって、展示機能の中核を担ってきたということで、高い評価もされている、重要な使命を果たしてきているといったご認識の一方で、今、様々な課題のほうも言っていました。このことについては、理解をいたします。

やはり最初の10日間で20万人からスタートした、70～80%という本当に高い稼働率の中ではありますけれども、やはりこの4,400件の催事に加えて、今後、今の課題をしっかりと乗り越えていくことで、やはりアクセスサッポロの後継施設である新たな展示場という役割・使命というの大きいのではないかなというふうに、改めて思います。

この条例案にも様々書かれておりますけれども、令和9年秋にオープンを予定していると言われております、この新たな新展示場というものは、現在のアクセスサッポロの5,000平米から、今度は1万5,000平米と3倍の大きさになるというふうに伺っておりまして、これまで以上に大規模な展示会の開催というのにも可能になりますし、集客力も大幅に増加するというのも想定されております。

また、ちょうど隣接しておりますランチ札幌月寒などの商業施設との相乗効果も見込まれるというふうにも聞いております。

ただ一方で、この1万5,000平米の展示場を高稼働で運営していくということが必要なんですけれども、オープン前の営業活動、またプロモーションというのが大変重要となります。特に大規

模な展示会というのは、2、3年前から開催地を検討して決めていくという傾向がありますので、今年度の営業活動がオープン後の円滑な運営につなげていくために、大変肝要であると思っております。

今般、上程されております、この札幌産業展示場条例案附則第3項の準備行為によりまして、今年度中には、指定管理者の指定手続によって運営者を決定すると。そして、来年度から運営を委託するというふうになっておりますけれども、今年度は運営者が空白の状況であります。

営業活動が手薄になるのではないかと大変懸念をしております、しっかりとした体制を構築していただきたいと思っております。

そこで質問ですけれども、新展示場のオープンに向けて、札幌市として、今年度どのような取組を行っていくお考えなのか、伺います。

●**渋谷産業振興部長** 新展示場のオープンに向けての取組について、お答えいたします。

新展示場の運営者につきましては、今年度中に選定を行い、来年度から営業活動等のプロモーションも含めた運営を担っていただく予定であります。そのため、今年度は札幌市が主体的にプロモーションを行う必要があることから、まずは経済観光局の職員が新展示場の情報を記載した名刺を作成の上、企業等への営業活動に取り組んでいるところでありまして、今後はリーフレットの作成や、各種メディアを活用したプロモーションも、実施をしてみたいと考えております。

加えて、新展示場の展示面積が大幅に拡充されることから、主に大都市圏で開催されるような、従来は施設規模の問題でアクセスサッポロが逸失してきました大規模展示会の主催者にも、積極的にアプローチをしてみたいと考えております。

●**竹内孝代委員** 営業活動もしっかりやっていくという旨の力強いご答弁、また、運営者を選定するまでの空白期間は、皆さん札幌市が主体的に

プロモーション活動を行うというご答弁でありまして、これには理解をいたしました。

今のご紹介ありました名刺についてでありますけれども、私もちょうど今回、担当される市職員の方々と名刺交換をする機会を得まして、その名刺には新展示場のパース図というのが大きく、小さな名刺ですけども、大きく目立つようについておりました。私もすぐ、何だろうというふうに思いまして、また、スペックや交通アクセスというのも非常に分かりやすく、その小さな中に説明されておまして、私も、新展示場の話が盛り上がるきっかけにもなりました。営業活動に資する取組の一つであるなと思えますし、ぜひこの名刺を片手に、どんどん営業活動していただいて、札幌市に誘致をお願いしたいと思います。

この来年度以降ということにつきましては、指定管理者が選定されて、プロモーション等の営業活動ということも運営を担っていくことになりまして、やはり札幌市も施設運営者と一体となって、まずはこのこけら落としで、前回は大きく上回るような規模の催事の誘致を実現していただきたいというふうに思いますし、また、施設を大いに活用して、先ほどありましたように、これまでになかったような、新たな魅力ある催事の開催に貢献していただきたいと願っております。

そのためにも、まずこの指定管理者の選定に当たってなんですけれども、市民の理解と、また納得がいくようなプロセスで進めていくこと、これが重要かと思えます。

また、併せて、この新展示場で多数の催事が開催されることを望まれている方々がいらっしゃる一方で、近隣には先ほど申しあげました大型商業施設もありますので、催事が盛んになると、交通渋滞の発生があるのではないかとというような懸念の声も、一部寄せられております。十分な配慮をお願いしたいと思います。

札幌の新たな魅力の一つとして、この誕生する新展示場の開設に当たっては十分な準備、また積

極的な営業活動にご尽力いただきますよう要望いたしまして、質問を終わります。

●吉岡弘子委員 私は、議案第8号 札幌市産業展示場条例案について、管理運営と利用料、周辺の交通渋滞、この3点を質問いたします。

条例案は、札幌産業展示場を公の施設として新たに設置し、その管理運営について必要な事項を定めるためとして提出されました。アクセスサッポロの後継施設として、豊平区の月寒グリーンドーム跡地に、札幌市産業展示場を建設中です。

事業方式はPFI（BTO）方式で、事業者は札幌展示場PFI株式会社とのことです。通常、PFI（BTO）方式というのは施設の建設維持、管理運営までの事業を一括して行う手法ですが、このたびは、運営は別枠で指定管理者が行うとされています。

そこで質問ですが、これまでは民間施設だったのが、なぜ市有施設になるのか、運営だけが別枠で指定管理者になっているのはなぜか、このような方法はほかに例があるのか、お聞きします。

●渋谷産業振興部長 新展示場の事業の手法について、2点ご質問があったので、お答えをさせていただきます。

まず、一点目の新展示場を札幌市が整備する理由ということだろうと思いますが、現行のアクセスサッポロは、札幌市の公の施設ではなく、国の関連団体による補助金の交付対象となるよう、札幌市と協議の上で一般財団法人札幌産業流通振興協会が所有する形態で建設されたものであります。

一方、新展示場につきましては、こうした特段の事情等がないことから、地方自治法第244条第1項の公の施設として、札幌市が建設を進めるものであります。

なお、公の施設として整備を進めるに当たり、民間の創意工夫を活用するPFI手法を採用することについて、昨年年第2回定例市議会において、事業契約締結の議決をいただいたところであ

ります。

次に、2点目の新展示場の運営を切り分けた理由ということ、それと他の事例についてということですが、アクセスサッポロを運営している一般財団法人札幌産業流通振興協会は、安定した稼働率と利用料収入を確保しており、札幌市としても、その運営能力を高く評価しておりますことから、令和4年3月に策定いたしました（仮称）新展示場整備基本計画におきまして、同協会が新展示場の運営に関与することを基本としつつ、望ましい運営方法などについて、検討を進めてまいりました。

その方針の下、令和5年度に実施いたしました新展示場の整備事業に係るPFI事業者の選定手続におきまして、同協会を構成企業とする事業者が参加した場合、その事業者に相当な優位性が生じることから、入札の公平性を担保するため、運営者は別途、選定することといたしました。

また、他の事例といたしましては、直近で名古屋市や福岡市が整備した類似の展示施設においても、運営を切り離したPFI手法が採用されているところでございます。

●吉岡弘子委員 新展示場のPFI（BTO）方式の事業期間は、設計施工3年、維持管理15年で、2024年5月から2042年3月末までの18年間と長期にわたり、建設費が222億円、維持管理費が40億円、合わせて262億円の契約です。

PFI事業とは別に、維持管理を除く運営のため、札幌市も出資している財団法人と指定管理の契約をするとされています。別途、運営に経費がかかることになるのか、黒字・赤字の場合はそれぞれどうなるのかなど、現段階で詳細は未定とお聞きしておりますが、市民の関心が高く、市民への説明も必要であると考えております。

次に、使用料についてお聞きします。

展示場の使用料は、アクセスサッポロが5,000㎡当たり88万8,800円のところ、新展示場は99万4,600円と12%アップします。新しくもな

り、料金も上げるといふことなのかと思います
が、例えば小さい50㎡の会議室では、平日午前中
の利用で6,500円という設定です。展示場は市民
も利用できるものですが、市民利用の場合には高
いと感じます。

そこで質問ですが、条例案5条2項には、使用
料は市長が別に定める場合に限り減額し、または
免除することができるかとありますが、どんな場合
に減額・免除を想定しているのか、お聞きしま
す。

●**渋谷産業振興部長** 使用料の減額・免除の想
定についてでございますが、減額・免除の具体的
な内容は、これから制定いたします規則や、事務
取扱要領において定める予定でございます。

他の市有施設においては、指定管理者が自ら使
用する場合や、公益上、特に必要な場合などを減
額・免除の対象としておりまして、こうした事例
を参考にしながら、新展示場の設置目的も踏まえ
て検討してまいりたいと考えております。

●**吉岡弘子委員** 設備も違いますし、同じ金額
にはならないと思いますが、清田区民センターで
すと、集会室4が75㎡で1,700円です。10㎡当
たりで見ると、展示場は1,300円で、区民セン
ターの5倍以上です。

新展示場は地域住民の使用が可能ではありま
すが、これでは高過ぎて利用できないのではない
かと思われます。商業活動ではなく、一般市民が
市民活動、地域の活動で利用する場合には、使
いやすい料金設定として減免するなどの工夫が
必要ではないかと思われます。ぜひ検討して
いただくよう、申し上げます。

次に、交通渋滞についてお聞きします。

近隣住民にとっての一番の心配事は、交通渋
滞です。今でも札幌ドームで日祭日のイベント
がある日は、私が住んでいる清田区まで渋滞
します。

そこで質問ですが、新展示場の1kmほどの
位置には札幌ドームがあり、イベントが重な
った場合、周辺の交通渋滞を懸念します
が、対策はどう

されるのかお聞きします。

●**渋谷産業振興部長** 大和ハウスプレ
ミストドームとイベントが重なった場合の交通
渋滞対策についてお答えをいたします。

新展示場につきましては、大型コンサート
やプロスポーツの試合など、短時間に交通が
集中する催事は避けることに加えまして、
十分な駐車台数や入庫車両を待機させる
ためのスペースを、敷地内に確保すること
としております。

また、供用開始後には、大和ハウスプレ
ミストドームとの催事情報の共有や、誘導
員の配置、公共交通への転換促進など、
交通渋滞の緩和に向けた様々な対策を
検討してまいりたいと考えております。

●**吉岡弘子委員** 大きなイベントは、
札幌ドームと同様に、新展示場でも土
日・祝祭日に集中すると思われます。
札幌ドーム付近は、昨年度の北海道
渋滞対策協議会でも主要渋滞箇所
に該当し、検討が続いています。

新展示場が供用開始されれば、さら
に渋滞に拍車がかかることが予測
されることから、しっかり対応・
対策をしていただきたいと思われ
ます。

アクセスサッポロは稼働率が高く、
さらに大規模な施設が必要という
ことで、主に展示会や見本市の
開催場所として、3倍の広さとな
る新展示場が整備されますが、
札幌ドームが近く、1km圏内に
あります。2023年度の札幌ド
ームの利用を見ますと、展示そ
の他のイベントが最も多くを占
めていますので、札幌ドームと
新展示場が競合するのではない
かと懸念もあります。

また、2027年9月から開業の
予定ですが、2027年度の利用
率の目標は、まだ示されてお
りません。公の施設となり、利
用率や採算性を見直しは大
丈夫なのかなど、市民にと
っては気がかりでありま
すので、明らかになった
段階で、市民への情報
提供をしっかりと
していただくよう
求めて、質問
を終わります。

●**田中啓介委員長** ほかに質疑はござ
いませぬ

か。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●田中啓介委員長 なければ、質疑を終了いたします。

次に、討論を行います。

討論はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●田中啓介委員長 なければ、討論を終了いたします。

それでは、採決を行います。

議案第8号を可決すべきものと決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●田中啓介委員長 異議なしと認め、議案第8号は可決すべきものと決定いたしました。

ここで、理事者退席のため、委員会を暫時休憩いたします。

休 憩 午前10時35分

再 開 午前10時36分

●田中啓介委員長 委員会を再開いたします。

次に、委員派遣についてを議題といたします。

各位に配付しております、令和7年度経済観光委員会行政視察実施案をご覧ください。

本委員会に関係する本市の諸課題や取組について、道外他都市の事例を調査し、今後の委員会活動の参考とするため、本案を作成させていただきました。

ここで、委員の皆様にお諮りをいたします。本案のとおり、行政視察を実施することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●田中啓介委員長 異議なしと認め、行政視察を実施することといたします。

なお、行程等の詳細については、正副委員長にご一任いただきまして、適宜、委員の皆様にもお知らせをいたしますので、よろしくお願ひいたし

ます。

以上で、委員会を閉会いたします。

閉 会 午前10時37分